

居合道 だより

第149号



居合道稽古会・級審査会



はじめに

先月福岡で開催された大相撲九州場所において、弱冠22歳の小結貴景勝が初優勝を果たした。

3横綱不在の場所を他の若手力士と共に盛り上げた立役者である。175センチ、170キロのアンコ型の肉体を武器に、突き、押し、はたきに徹し、大関、横綱を屁とも思わぬ度胸と相撲っぷりで好角家をうならせての優勝であった。

今年も野球の大谷選手、フィギュアスケートの羽生選手など20代前半の若者が大活躍をしたが、格闘技という特殊性もあろうが貴景勝はあきらかにその二人とは違って見えた。二人は優等生で、人としてもすでに成熟しつつあるように感じる。

一方の貴景勝は、いかにもきかん坊然としている。しかし相撲に賭ける気概、真正面から相撲に取り組むかたくなまでの姿勢は、前師匠譲りか。

彼は中学時代、相撲で全国優勝するなど相撲一筋、陽の当たる道を歩いてこ

まで来た。その貴景勝が優勝翌日、テレビの生放送で発した言葉に衝撃を受けた。

「今まで相撲をやってきて、うれしいと思ったことはあるが、楽しいと思ったことはない。」と言い切ったのである。較べようもない次元の低いことではあるが、小生も居合をやってきて、ある目標を達成できた50代の前半、ふと一人で振り返ったとき、全く同じ思いにとらわれたのである。まだ20代の若者に何がそこまで言わせるのか。

昭和30年代、一世を風靡した大横綱、初代若乃花は「お金は土俵の中に埋まっている」と言った。まだ日本中がハングリー精神に溢れていたし、職業としての相撲だからその言葉は納得できるが、土俵の鬼と呼ばれた要因はそれだけではあるまい。何が彼をそこまでかりたてたのか。男の意地、達成感、誇り、求道心、それらの言葉では言い表せない「何か」がある気がしてならない。

近い将来、貴景勝が横綱になったら、もう一度彼の言葉を聞いてみたい。しかしその「何か」は、たぶん引退してしばらく時間が経たないと彼自身にも分からないことなのだろう。

拙道場では久しぶりにまとめて少年少女剣士たちに居合を教えることになった。

まだ一月しか経っていないがグングンと上手くなっている。何よりも真剣に稽古をするし、本当に楽しそうなのである。教えるこちら側までうれしくなってくる。

彼らに、何のために居合をやるのかと聞いたり、教えたりするのは愚の骨頂だ。

続けてくれた後、長い年月を経て、彼らがそれぞれにその「何か」を感じ取ってくれたら、これに越したことはない。もうしばらくは老骨に鞭打ってみようかなと思わせてくれた。

感謝

主な活動

11月 4日	日	福岡県居合道地域稽古会	大牟田市
10日	土	剣道・居合道・杖道教士称号筆記試験	全剣連 東京都・名古屋市・神戸市・福岡市
17日	土	居合道6・7段審査会	全剣連 東京都

12月・1月の活動予定

12月 9日	日	福岡県居合道地域稽古会	田川市
1月 6日	日	居合道初稽古会 居合道部	福岡武道館

お知らせ

第21回全国居合道七段選手権大会・第45回北九州居合道大会の申し込みが始まっております。

詳しくはこちら>>[実施要綱](#)

級審査会







△団体総合3位入賞 写真は佐伯氏提供

糸島錬心館道場
教士八段 國方孝之

第53回全日本居合道大会が平成30年10月20日、茨城県水戸市で開催されました。天候にも恵まれ、47都道府県を代表する剣士の熱気で全日本大会独特の雰囲気の中、熱戦が展開されました。私も監督控えて福岡県の選手の試合を一緒に戦っているような気分

で緊張し手に汗をかいて監督を務めさせて頂きました。

選手及び補欠員全員、特に今年の夏は例年になく酷暑の中、強化稽古はきつかったと思いますが、各選手が自分の課題に全力に取り組む稽古の結果として都道府県対抗で第3位という結果に結びついたものと思います。

また、全日本居合道大会史上初の同点同旗本数で3県同点の3位となり、改めて旗1本の重みを認識する大会でもありました。試合当日各選手には、自分の前の仮想敵のみを一生懸命斬っていこうを繰り返し言うのみでした。特に佐伯選手は初陣でもあり、また第一試合という中で相当緊張もしたと思います。僅差で惜しくも敗退しましたが自分の居合を十分に抜ききってくれました。この旗1本が第3位には大きかったと思います。馬場選手、末次選手も強化稽古の成果の通りよく抜き馬場選手はベスト4、末次選手は地元を破りベスト8と良く戦ってくれました。佐伯選手、末次選手、馬場選手ほんとうにお疲れ様でした。3選手には今後も各自の目標を見据え更なるご精進を祈念致します。

私自身監督として指導する難しさを痛感すると共に反省する所も多々有り、大変勉強になった次第です。有難うございました。

最後になりましたが、この度の全日本居合道大会に際しまして、福岡県剣道連盟、福岡県剣道連盟居合道部会長はじめ八段の先生方、強化委員並びに会員皆様方のご支援、ご協力を賜り深心よりお礼申し上げます。

福岡武道館居合道部 五段 佐伯伊勢雄

このたびは、全日本選手強化稽古会への参加ならびに大会出場の機会をいただきまして誠にありがとうございました。全日本レベルにはほど遠く、気後れしておりましたが、先生方には根気よく丁寧に、ときに厳しくご指導いただきました。呼吸や一瞬の間のとり方にも研鑽されている先生方の奥深かさに驚き、また楽しく面白く、ありがたいものでした。

十月に入り強化稽古会も無事終了し、不安と緊張をかかえて茨城へ出発しました。

前日の会場ではスタッフの方々が熱心にリハーサルをされているなか、國方監督や馬場先生、末次先生に全日本の作法を教えていただきながら、実際の試合場に立って演武をイメージしました。

大会では「頭が真っ白になる」「足が震える」「手に汗握る」「命が縮む」「独特の緊張感」・・・など先生方の体験談に加え、第一試合目であることから、どうなるものかと思っていましたが、神前の礼の後に会場から起こった拍手を聞いた時、何かこみ上げるものがあって励まされる思いでした。

試合は力不足のため一回戦で負けてしまいましたが、旗一本を上げていただいたことは「これからも居合を続けてもいいよ」という先生方からのメッセージとして受けとらせていただき、教えていただいたことがしっかりできるように稽古を積み重ねていきたいと思っています。

稽古会から全日本大会前までの三か月の間には、先生方の居合道の発展に尽くされている無私の姿、稽古前のモップがけから飲料等の準備まで、気持ち良い稽古場づくりを黙々とされている先生方の利他の姿に触れて、技の修練だけではなく、心の修練も教えられたように思います。今はまだモップがけ程度しかできませんが、皆さまが居合道を気持ちよく楽しく続けていける環境づくりのお手伝いをするので、福岡県居合道部へ少しずつ恩返しをしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

なお、所属している福岡武道館居合道部の代表三角先生には、全日本経験者ならではのご指導やお心遣いをいただきました。部員の皆さまにも心中を察していただいて静かに見守ってくださったことに感謝申し上げます。

第53回 全日本居合道大会

飯塚居合道同好会 教士七段 馬場清治

平成30年10月20日（土）茨城県水戸市にて開催されました第53回全日本居合道大会に七段の部にて出場させて頂きました。

現地入りしたのは前日19日（金）の午後で試合会場は木立に包まれ落ち着いた感じの会場で、中では翌日の本番に向けてリハーサルが行われており、他県の選手監督からも殺気立ったものが伝わって来て、まるで合戦の前日のようなピリピリした空気と緊張感が張り詰めているのを肌で感じ、私自身も翌日の本番に向け更に気が引き締められる思いでした。

全日本という独特のプレッシャーからか、稽古をする際に末次先生は膝サポーターを忘れ、佐伯先生は刀の手入れ道具を忘れてしまうというハプニングもありました。

抜き技は古流二本で初発刀と戸詰を、指定技二本目、六本目、十本目、準決勝からは三本目、七本目、十一本目。当日の試合では2回戦からの出場で時間的にも余裕があり、試合前の稽古も十分できて試合に臨んだのですが、緊張から肩の力や上体の力が抜けないまま試合が進み、残念ながら準決勝で敗退し自身の力不足を痛感させられました。

個人的には残念な結果に終わりましたが、幸運にも県としては総合で第3位を頂きました。

今回の全日本居合道大会への出場機会を与えてくださいました先生方、また出場に至るまで厳しく時には暖かく親身になりご指導くださいました先生方、応援くださいました皆様に心よりお礼と感謝を申し上げます。

この大会に出場させていただいたことは貴重な財産と思っていますこの大会で経験したことを糧にして更に精進して参る所存です。

© 公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第149号 平成30年12月1日発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL: <http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田 36 番地 -1

TEL:092-322-0847